

A N N U A L R E P O R T 2 0 2 1

年 次 報 告 書



EXPO'90
FOUNDATION

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

御手洗 富士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2021年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」(第28回)の受賞者にオーストラリア国立大学名誉教授のピーター・ベルウッド博士を選出いたしました。ベルウッド博士は、考古学、言語学、人類生物学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱され、農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにするとともに、この研究を通して、自然と人間との共生の歴史を統合的な視点から探究されました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、授賞式を挙行することが叶いませんでしたが、オーストラリアと日本を繋ぎ、WEB会議システムによる受賞記念講演会を開催することができました。

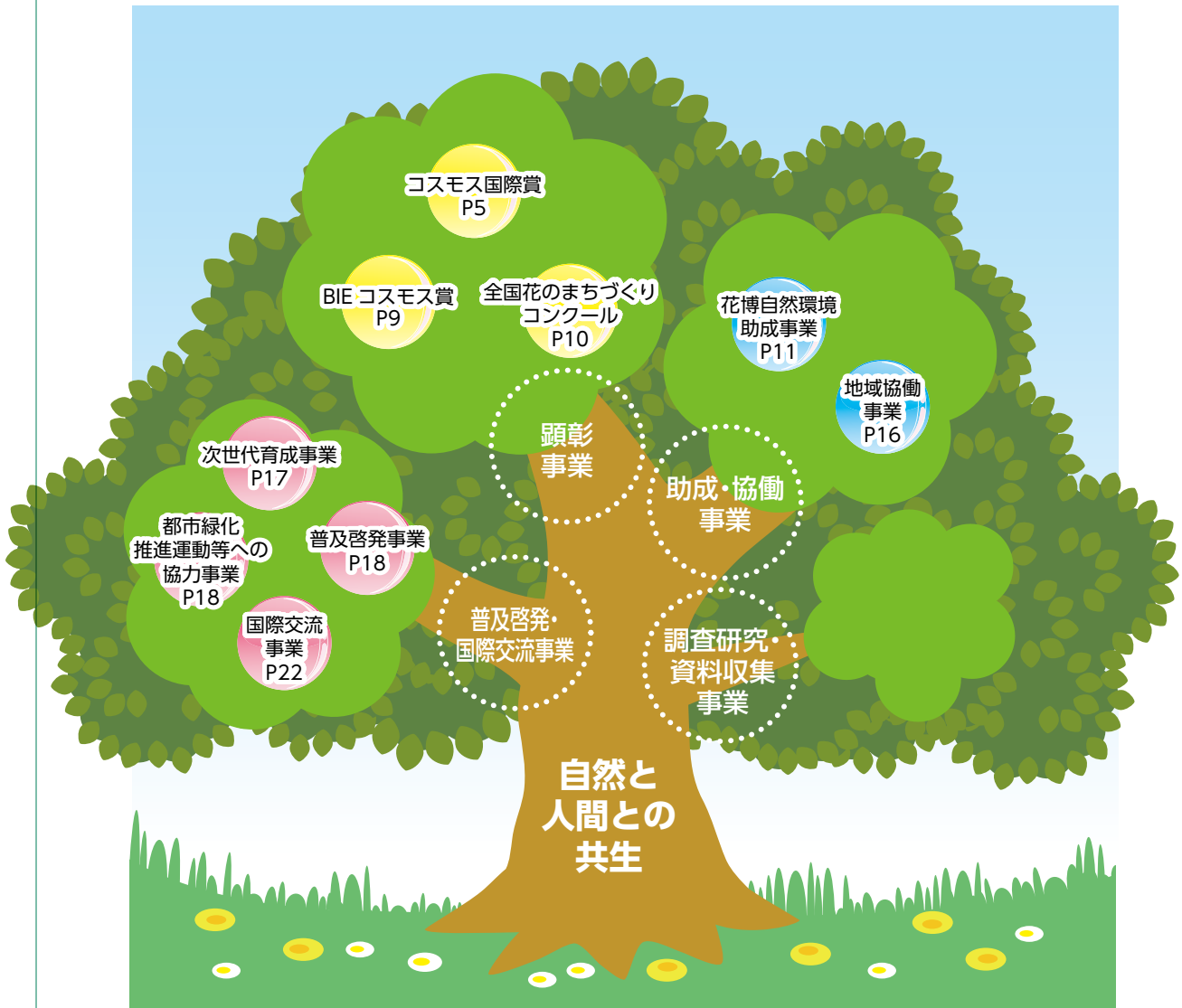
また、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、感染症の影響により、一部の事業で延期や中止等を余儀なくされましたが、オンラインでの講演会など新しい事業形態での実施により、国内外からの参加を得るなど、一定の成果を挙げることができました。

本書は、これら2021年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

最後に、2021年11月1日に当協会は設立30年の節目を迎えました。これも偏に関係各位のご指導、ご協力の賜物と感謝申し上げ、さらに各事業を推進してまいりますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2021年(第28回)受賞者の選考を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2021年(第28回)受賞者の選考・決定等>

- ・第1回、第2回選考委員会(令和3年4月30日、5月15日)
- ・第3回選考委員会(令和3年6月18日)
- ・第2回賞委員会(令和3年6月18日)

2021年受賞候補者にピーター・ベルウッド博士(オーストラリア国立大学名誉教授)が選定されました。

- ・第110回理事会(令和3年7月13日)

賞委員会より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施しました。



2021年(第28回)コスモス国際賞受賞者
ピーター・ベルウッド博士
(オーストラリア国立大学名誉教授)

考古学、言語学、人類生物学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにするとともに、この研究を通して、自然と人間との共生の歴史を統合的な視点から探求した。

<2022年(第29回)受賞者の選考等>

- ・第1回賞委員会(令和4年2月2日)

2021年 コスモス国際賞 受賞記念講演会

コスモス国際賞の関連行事として、2021年受賞者ピーター・ベルウッド博士による受賞記念講演会をオンラインで開催しました。受賞者紹介動画の配信の後、ベルウッド博士が講演を行い、その後、ベルウッド博士と佐藤洋一郎博士との対談が行われました。対談の後半では、佐藤博士の進行により、聴講者の質問に対する回答がベルウッド博士により行われました。

日時：令和4年1月23日(日)午後2時～4時

場所：オンライン(Zoomウェビナー)

後援：農林水産省、国土交通省、環境省、オーストラリア大使館、東京都教育委員会、日本オセアニア学会、東南アジア考古学会

視聴者数：310名

内容：

- ・2021年コスモス国際賞受賞者紹介映像
- ・受賞記念講演「最初の農耕民とその子孫を探して」
ピーター・ベルウッド

- ・対談、質疑応答

ピーター・ベルウッド

佐藤洋一郎(京都府立大学文学部特別専任教授、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・フランス卿
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・パロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau
(Deceased)



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の鳥々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良龍夫
(物故)
Dr. Tatu Kira
(Deceased)



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ:生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi
(Deceased)



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

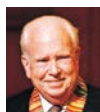
2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
(物故)
Dr. Georgina Mary Mace
(Deceased)



英国・ロンドン大学自然環境調査会議体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・ヴェン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルグレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
(物故)
Dr. Edward Osborne Wilson
(Deceased)



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

2021年度事業実績

2013年(第21回) 平成25年

ロバート・トリート・ペイン
(物故)

Dr. Robert Treat Paine
(Deceased)



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年

フィリップ・デスコラ

Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこ自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年

ヨハン・ロックストローム

Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回) 平成28年

岩槻 邦男

Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年

ジェーン・グドール

Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

野生チンパンジーの研究を長年続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーの住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った他、世界の多くの国で実践されている環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を創案した。

2018年(第26回) 平成30年

オギュスタン・ベルク

Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回) 令和元年

スチュアート・L・ピム

Dr. Stuart L. Pimm



米国・デューク大学教授

生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等について、数理モデルにより理論的に明らかにすると共に、NGOを立ち上げ、生物保全活動を支援するなど、生態系や生物多様性の保全に対して科学と実践の両面において多大な功績を果たした。

顕彰事業

委員会

コスモス国際賞委員会 令和3年6月30日現在(50音順)

委員長	尾池 和夫	静岡県立大学理事長兼学長
副委員長	山極 壽一	総合地球環境学研究所所長
委員	秋道 智彌	山梨県立富士山世界遺産センター所長
委員	浅島 誠	帝京大学特任教授
委員	池内 了	総合研究大学院大学名誉教授
委員	磯貝 彰	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授
委員	白山 義久	京都大学名誉教授
委員	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長
委員	中西 友子	星薬科大学学長
委員	西澤 直子	石川県立大学学長
委員	林 良博	東京大学名誉教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学名誉教授
委員	和田英太郎	京都大学名誉教授
顧問	岩槻 邦男	東京大学名誉教授
顧問	岸本 忠三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
顧問	中村 桂子	JT生命誌研究館名誉館長

委員会

コスモス国際賞選考専門委員会 令和3年6月30日現在(50音順)

委員長	白山 義久	京都大学名誉教授
副委員長	池谷 和信	国立民族学博物館教授
委員	池邊このみ	千葉大学大学院園芸学研究所教授
委員	モンテ・カセム	国際教養大学理事長兼学長
委員	亀崎 直樹	岡山理科大学生物地球学部教授
委員	ケビン・ショート	東京情報大学環境情報学科元教授
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環教授
委員	高村ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授
委員	辻 篤子	中部大学特任教授
委員	横山 潤	山形大学理学部教授

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）と当該博覧会協会と三者で「BIEコスモス賞」を実施しています。令和3年度は、アラブ首長国連邦で開催されたドバイ万博のテーマ「心をつなぎ、未来を創造する」に関する活動やプロジェクトを顕彰する第6回BIEコスモス賞に参画、支援を行いました。

令和4年3月8日にオンラインで開催された審査会に参加し、ナミビア共和国の「ナークセ肉食動物保護研究プロジェクト」に賞を贈ることを決定、ドバイ万博閉会の前日（BIEデー）の令和4年3月30日に開催された授賞式にて、賞金2万ユーロを授与しました。



顕彰事業

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第31回
(2021年)
全国花の
まちづくり
コンクール

主催者：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)
入賞/応募数：27点/1,031点
表彰式：新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

農林水産大臣賞



富野裕子(富山県砺波市)



楢原ゆうあい会(山口下関市)

文部科学大臣賞



みなべ町立高城小学校(和歌山県みなべ町)

国土交通大臣賞



ふかや緑の王国ボランティア(埼玉県深谷市)



小松市(石川県小松市)

第27回
全国花の
まちづくり
由利本荘大会

主催：全国花のまちづくり由利本荘大会実行委員会、
花のまちづくりコンクール推進協議会、秋田県
花いっぱい運動の会、由利本荘市、秋田県
開催日：令和3年7月17日(土)～18日(日)
場所：由利本荘市文化交流館カダーレ
(秋田県由利本荘市)



助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで300件余の団体を支援してきました。

助成対象は、従来同様、花の万博の基本理念の継承発展・普及啓発につながる調査や活動で、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的としています。

令和3年度
助成事業

令和3年度は32件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
ひろしま野生動物研究グループ	ノネコの行動特性の解明	広島県	ノネコによる在来生態系への悪影響が世界各地で懸念されている。しかし、日本ではノネコの生態特性に関する情報は極めて乏しく、生態系への影響はほとんどわかっていない。本事業では、ノネコにGPS発信器を装着し、日本の一般的な生態系における本種の行動特性を明らかにする、国内で初めての試みを展開する。
NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ	浅間山の草原・森林における動植物モニタリング調査	長野県	浅間山の亜高山帯、偽高山帯に貴重な自然草原が存在するがシカの採食圧や森林化、乾燥化等により、草原環境の維持が危ぶまれている。その草原の生物多様性の維持のために、生息する動植物のモニタリング調査を実施し、当該地の保全に向けての効果的な方法や対策について考察する。
特定非営利活動法人awarart	蟹殻の米・花における効果調査	福井県	2003年、温泉と農地を活かし、14の旅館が越前がに等の蟹殻を提供し、生産者が回収、乾燥、粉碎をして、トマトやメロン、米を栽培し、環境循環型の「あわら蟹殻プロジェクト」に取り組んでいる。蟹殻に含まれるキチン・キトサンの植物における効果を調査し、次世代教育プログラムや遊休地活用のために研究を行う。
小笠原固有昆虫保全研究会	小笠原固有の絶滅危惧昆虫類の保全手法の開発と実践	神奈川県	小笠原諸島は、海洋島として独自の進化を遂げた多数の固有昆虫が知られている。しかし、侵略的外来種のグリーンアノールによる捕食圧、モクマオウによる林相の変化などによって、生息状況の劣化が著しい現状にある。本研究では、危機的状況にある絶滅危惧昆虫の新たな環境再生手法を開発し、実践することで保全に寄与する。
神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の保全手法の開発普及と現状把握調査	神奈川県	絶滅危惧種Ⅰ・Ⅱのトンボの保護・保全活動を地域の住民・環境団体・昆虫同好会・研究者・日本トンボ学会自然保護委員会と連携して行い、保全手法の開発・検証・普及を行っていく。また、RD種の分布調査を行い、結果を日本トンボ学会自然保護委員会に提供し保全情報として役立てていく。
タンポポ調査・西日本実行委員会	タンポポ調査・西日本2020	大阪府	西日本19府県(近畿・中国・四国)で、府県実行委員会により市民参加型で、在来種(カンサイタンポポ、ヤマザトタンポポなど)、外来タンポポ、雑種タンポポの分布を継続調査を行う。
モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発	滋賀県	降水量が少ないため、山火事後の再生が困難なモンゴル北部で、森林観察で着想を得た「倒木遮蔽更新」仮説を応用した森林再生促進技術の開発を行い、その成果を現地の人々に共有してもらうために研究調査、発表、技術研修、展示、論文化を行う。
国際湿地生物研究グループ	消滅の危機にある塩性湿地の水生双翅目昆虫相の解明	滋賀県	日本の干潟は開発などにより戦後40%以上が減少し、特にその背後湿地である塩性湿地の大部分は失われた。かろうじて残されている南西諸島の塩性湿地のうち環境省が選定した重要湿地において、湿地生態系の鍵となる分類群の一つである水生双翅目昆虫の種多様性を明らかにし、環境の指標生物として活用できるようにする。

助成・協働
事業

【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
久保川イハトープ自然再生協議会	放棄農地を生物多様性の高い水辺環境に変える自然再生	岩手県	対象地はセイタカアワダチソウなどの外来種が繁茂していた放棄農地で、駐車場にするために表土を剥ぎ取られた約35,000㎡の荒地である。そこを所有者の承諾を得てビオトープを多数つくり外来種の排除を行う。この事業により当該地域に生きるものがどれくらい再生するかを調査する次年度以降の調査研究につなげる。
かたつむりミュージアム ラセン館	カタツムリ博物館の開館と普及啓発活動	京都府	軟体部の標本固定が困難なカタツムリの、生きている時の様子を再現したリアルフィギアの制作を中心とした「かたつむりミュージアムラセン館」の展示物の充実を目指す。また、それらを社会に向けて幅広く発信していく普及啓発活動を行う。
ユウバリコザクラの会	夕張岳天然記念物指定25周年記念事業	北海道	夕張岳が国の天然記念物指定を受けてから、2021年で25周年を迎えることとなった。これを記念し、シンポジウムを地元夕張市で開催して市民や関係者への認識度を一層上げること、国道452号線の望郷公園に夕張岳と天然記念物に指定された内容の解説を含んだ看板を設置し、幅広くその自然の価値の高さをPRする。
特定非営利活動法人白神山地を守る会	白神山地世界遺産登録28周年記念フォーラム開催事業	青森県	2021年で20年目となる植林活動を次世代につないでいく為に、環境省や自然と人との共生活動を実践している方々に、白神山地で続けているブナの森の復元・再生活動の取り組みの主旨を検証していく機会を作る。
ひらかたプレーパーク実行委員会	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成	大阪府	プレーパークを市民参加で作上げる。初年度にコアメンバーの確保とスキルアップを達成。2年目となった令和2年度には、整備作業と並行して植生・生物調査と地域住民参加による人材育成を行い、持続的な緑地利用の在り方を明確化した。令和3年度には集大成として調査結果の取りまとめと継続的な活動基盤を確立する。
江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト	埼玉県	保存会は江南の藤(ノダナガフジ)を保存・継承しかつ地域に根ざしたコミュニティづくり・環境保全・保護の促進を行う事を目的とする。熊谷市地球温暖化防止活動促進員として熊谷青年会議所と提携して藤棚の下が外気と5度～6度涼しくクールシェア一先として6月～7月末まで一般開放する。
つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動	東京都	「命」をキーワードに、年間プログラムで身の回りの環境体験や作物づくりを通して、自然との共生を「体験的環境学習」として学ぶ。生物多様性・生態系サービス・SCGsに配慮。参加者は3歳児から小学校～大学生までの子どもと親が中心。未就学児の参加者が急増し半数。地域住民主催で16年目の活動を継続・実施。
公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぶう～角間の里山自然体験～	石川県	金沢市内の里山「角間の里」にて、小学3年生から中学生までの児童生徒に対して、季節ごとの自然観察や、タケノコ掘りや昆虫採集といった体験活動を行う。
特定非営利活動法人日本高山植物保護協会	大学生による三つ峠山アツモリソウ集団の保全活動	山梨県	地球の温暖化、シカの食害、さらには盗掘など、高山植物が置かれている現状を、次世代を担う若者、特に登山や植物に関心のある大学生に理解してもらい、その保護活動の一環として登山道の整備や植生の回復作業を実際に体験できる機会を提供することで、高山植物の保護活動の担い手を育成するとともに普及活動につなげる。
ウミガメネットワーク三重	ウミガメを本物で伝える！	三重県	ウミガメを保護する団体として、主にウミガメの卵や子ガメを保護しているが、活動範囲の海岸にウミガメ(成体)の死体が頻りに打ちあがるため死体の調査や研究も行っている。その死体をプラスチック標本にし、ウミガメ出前講座では受講者に分かりやすく説明する。
特定非営利活動法人フォレストサポートクラブ	学校林整備(植樹・育樹)・PTC活動の実施	広島県	学校林の整備(雑木処理・下刈り・道路整備他)活動。桜・紅葉等の植樹・育樹活動。PTC活動・クラフト教室等の実施。椎茸教室・竹炭教室の実施。地域イベントの参加。
特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんが伝える「樹木の生き方」	兵庫県	樹木医は、樹木の診断と樹勢回復、樹病の予防や後継樹の保護育成などに携わる専門家である。樹木医が「樹木の生き方」に関する知識や技能を環境教育プログラムに変換し、自然科学の普及に取り組む。
生駒山昆虫観察の会	「生駒山昆虫観察会2021～森の生態を探る」	奈良県	親子ペアの参加者が、山の中で1泊2日し、生物学者と森の生態系、生き物を観察・採集する催し。参加者は、植物・昆虫の観察、採集を行い、いのちの循環、生き物の生態、体のしくみなどを知る。
山形県立置賜農業高校農業クラブ花いっぱいプロジェクトチーム	川西町 花いっぱいプロジェクト	山形県	本事業は花を活用して地域を明るくすることテーマに、本校がある山形県川西町を本校生徒が育てた花でいっぱいになりたいという思いでスタートした。町内の官公庁や事業所にプランターを設置する他、保育園や介護施設の花壇の植栽を行う。

源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり「藤袴祭」	京都府	1.地域に花の魅力と歴史、文化、伝統を持つ和の花の伝承の大切さを理解してもらい保全育成者の参加を呼び掛け育成活動を推進し5月～11月まで作業する。2.地域育成者の藤袴針を展示して香りが誘う賑わいの町を創る藤袴祭を10月第2週金～月の4日間開催する。
里山の山野草を守る会	自生する山野草の保全と管理	奈良県	里山や里地は、生産と生活の変化に伴って、人の手が加えられなくなり荒廃が進展していく。自然の形で守られてきた山野草とその生育環境が失われてしまう危機的な状況から脱却するため、人の手を加え、奈良県レッドデータブックにうたわれた、貴重な山野草を保全管理する。
NPO法人自然回復を試みる会・ピオトープ孟子	孟子不動谷ユネスコ未来遺産運動	和歌山県	幼稚園児(もうごさとやまようちえん)、小学校(わんぱくクラブBコース、中学生(県立向陽中学校理科部・わんぱくクラブ中学生コース)が、未来遺産登録地・孟子不動谷において、里山遊び・自然観察・調査研究を行い、年度末(令和3年3月)に開催するシンポジウム「生物多様性フォーラム」において発表を行う。



ひろしま野生動物研究グループ



特定非営利活動法人awarart



ひらかたプレーパーク実行委員会



江南の藤保存会



ウミガメネットワーク三重



里山の山野草を守る会

助成・協働
事業

【復興活動支援】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
西日本自然史系博物館ネットワーク	令和2年7月豪雨で水損した前原勲次郎植物標本の修復	大阪府	令和2年7月豪雨による球磨川氾濫で前原勲次郎植物おし葉標本コレクション(人吉城歴史館所蔵)約3万点が水損した。現在、標本は全て現地から搬出され、全国の協力機関で一時冷凍保管されている。今後協力分担して修復を行い、球磨地方の地域植物相解明や郷土種緑化に参照可能な基礎資料として維持・整備する。
特定非営利活動法人チームふくしま	震災から10年ひまわりプランター設置事業	福島県	福島を応援しようと全国から届いたひまわりの種から花を咲かせる仕事を福島県内の福祉作業所へ依頼。咲いたひまわりを福島県内の学校、行政、児童養護施設などに設置。その後、種の採取、搾油をし、油からバイオ燃料への変換を行っている福祉作業所へ油を寄贈。障がい者の雇用促進及び全国からの応援の気持ちを広める。
特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会	里山から花とみどりあふれる地域づくり	茨城県	景観保全のため花とみどりあふれる地域づくりを目指し、植栽・栽培・収穫体験を行い、収穫した野菜等を使って、食育を行いながら、食育の一環として注目されている野菜等・ハーブを栽培します。復興の一環として里山整備をし、そこに広がる畑の土壌分析を行いセシウムの数値をはかります。
吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動	岩手県	東日本大震災の被害を受けた吉里吉里地区内の防潮堤脇の空き地(震災後居住域ではなくなった町有地)が、復興の象徴として、再び人が集まるにぎわい場所を創る。
小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園事業・「ハーブ」スキルアップ講習	福島県	原発被災地である小高区において、まちなかに発生した空き地を菜園として活用し、帰還した住民が集い憩える場所の創出を目指す。これまでの菜園活動から、ハーブの栽培が空き地の活用に有効であると考え、本事業ではハーブの栽培スキルやハーブを加工するスキルを得ることを目的に、勉強会を開催する。
特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター	花が育む高校生と地域との交流支援事業	福島県	普通高校生と支援学校生が協働し地域の商店会や振興会・女性の会の皆さんと一緒にプランターの寄せ植えや花壇の植え込み作業を通してふれあい交流を深める事業。2020年度から地域の幼稚園児も参加し地域全体で窪田町の活性化を図る。
特定非営利活動法人パワーアップ支援室	心を支え風化を防ぐ花の防潮堤醸成プロジェクト	岩手県	津波最大到達地点付近における花壇の新設や花と緑の植栽、維持管理を通して、東日本大震災の風化防止と未来への継承、植物の癒し効果による心の復興の促進と、地域住民や県内外のボランティアとの心の交流の場の醸成を行う。



西日本自然史系博物館ネットワーク



特定非営利活動法人チームふくしま



特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会



特定非営利活動法人パワーアップ支援室

委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 令和3年4月1日現在(50音順)

委員長 丸山 宏 名城大学名誉教授
副委員長 長村 智司 (一社)フラワーソサイエティ会長
副委員長 林 孝洋 近畿大学農学部農業生産科学科教授
委員 久山 敦 (一財)大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長
委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授
委員 須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト
委員 武田 重昭 大阪府立大学生命環境科学研究科准教授
委員 永田 萌 イラストレーター・絵本作家
委員 橋本 佳延 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

令和4年度 助成対象の決定

令和4年度の助成事業の実施分については、次のとおり行いました。

- 【公募】 公募期間：令和3年8月2日(月)～9月10日(金)
- 【審査】 審査期間：令和3年10月～令和4年2月
- 【決定】 助成事業審査会の審査結果として、対象28件が理事長に答申され決定しました。また、この内容は第112回理事会に報告しました。

助成・協働
事業

2. 地域協働事業

花博自然環境
助成
シンポジウム
～熊楠から
受け継ぐ
エコロジーの
思想と未来
に向けて～

趣 旨：日本の生態学の先駆者である「南方熊楠」をテーマに学識者による講演と、地域で活動する方の成果の発表の場として、web参加によるシンポジウムを開催しました。

シンポジウムを通して、植物学、菌類学、民俗学の祖として名高い南方熊楠が地域に残した功績をたどると共に、地域固有の人・自然・風土について考察し、自然と人間との新たな関係性について探りました。

日 時：令和3年8月31日(火)午後0時30分～4時

場 所：オンライン(Zoomウェビナー)

主 催：当協会

共 催：(公財)南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会

後 援：環境省近畿地方環境事務所、田辺市

視聴者数：140名

内 容：

(1) 基調講演

志村 真幸 南方熊楠顕彰会理事「熊楠から受け継ぐエコロジーの思想と未来に向けて」

(2) 発表、トークセッション

発表① 天神崎の自然を大切にす会「天神崎の自然とナショナル・トラスト運動」

発表② 南方熊楠顕彰会 田辺・南方熊楠翻字の会「田辺・南方熊楠翻字の会 活動紹介」

発表③ 番所山を愛する会「番所山を愛する会 活動報告」

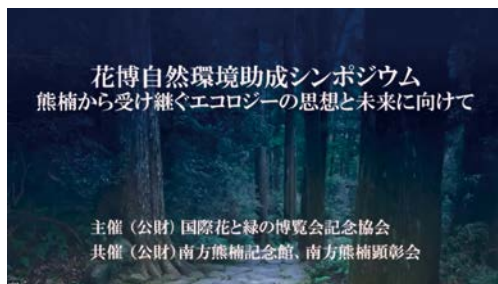
(3) パネルディスカッション

志村 真幸 南方熊楠顕彰会理事

丸山 宏 花博自然環境助成審査委員会委員長

佐倉 統 花博自然環境助成審査委員会委員

鷲谷いづみ コスモス国際賞委員会委員



普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、講師派遣型セミナーを実施しました。

小学校講師派遣 コスモスセミナー小学校講師派遣は、協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さ、ひいては地球環境の大切さを学習し「自然と人間との共生」をいう花の万博の理念の継承・発展に資することを目的としています。
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響とICT (Information and Communication Technology) 教育の導入が急速に進められている情勢を鑑み、オンライン授業の導入を行い、現地授業8校、オンライン授業6校の計14校で授業を行いました。

アンケート(一部)

- ・専門的で大変良かった。子供たちの興味が深まった。大変貴重なお話をありがとうございました。
- ・子供たちが興味を持ちやすい内容だったのでとても良かったです。ほかの講師の方の授業も見てみたいです。無料でここまでしていただき、ありがとうございました。
- ・コロナ禍でオンライン授業への取り組み実践事例を作りたいだったので応募しました。とても分かりやすく教えてくださって、子供たちも45分集中していました。来年もぜひお願いしたいです。
- ・今回はありがとうございました。細かい打ち合わせ等をしていただいたのですが、都合が合うのであれば、実際に講師の先生方とどのような話をするのかを含めて、お話を事前にしたかったです。子供たちも喜んでいました。ありがとうございました。

● 実施日	● 実施校および参加者	● 長形	● 形態	● テーマ	● 講師
令和3年6月21日	東大阪市立弥刀小学校 5年生 59名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷和信(国立民族学博物館教授)	
6月22日	池田市立緑丘小学校 6年生 90名	対面	生き物と食べ物について	佐藤洋一郎(京都府立大学特別専任教授)	
6月29日	茨木市立太田小学校 4年生 123名	オンライン	昆虫の生態・川的环境	谷幸三(一般社団法人淡水生物研究所理事)	
7月1日	大阪市立鶴橋小学校 6年生 22名	オンライン	植物のかたちとはたらき	渋谷俊夫(大阪府立大学教授)	
7月5日	大阪市立中道小学校 5,6年生 65名	対面	動物の命の不思議	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)	
7月6日	大阪市立喜連西小学校 5年生 65名	対面	動物の命の不思議	長瀬健二郎	
7月7日	高槻市立清水小学校 4年生 113名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷和信	
7月12日	吹田市立山田第五小学校 3年生 21名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野甲(カタツムリミュージアムラセン館代表)	
9月8日	大阪市立住吉川小学校 6年生 79名	オンライン	ゴリラと歩いて学ぶ自然の仕組み	山極壽一(総合地球環境学研究所所長)	
9月24日	吹田市立佐竹台小学校 4年生 136名	オンライン	動物の命の不思議	長瀬健二郎	
10月5日	東大阪市立北宮小学校 5年生 86名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷俊夫	
11月30日	追手門学院小学校 4年生 150名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷和信	
12月7日	箕面市立止々呂美小学校 4年生 120名	オンライン	生き物と食べ物について	佐藤洋一郎	
令和4年3月8日	堺市立さつき野小学校 6年生 45名	オンライン	動物の命の不思議	長瀬健二郎	



普及啓発・国際交流事業

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市緑化推進運動協力会に参画し、市民の都市緑化意識の高揚を目的に開催された「春季における都市緑化推進運動」(4月1日～6月30日)、「都市緑化月間」(10月1日～10月31日)中に開催された都市緑化キャンペーン、小中学校の壁新聞「育て！子どもたち」(産経広告社)を活用したコロナ禍における公園緑地の安心安全な利用促進の普及について、支援しました。また、10月29(金)に東京都千代田区の日本教育会館で開催された「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会開催について、協力を行いました。



3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：令和3年10月31日(日)

場 所：浜寺公園(大阪府堺市)

来場者：約3,000名

主 催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

主な内容：・ 樹木の剪定実演講習会
・ 自然工作や木工、ハーブを使ったクラフト体験、指で描くパステルアートのワークショップ
・ おおさか野菜のマルシェ、
・ 多肉植物の寄せ植え教室など



みどりのまちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第9回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。

主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

募集期間：令和3年5月17日～7月21日

入賞／応募数：8点／26点

表彰式・講評会：

日 時：令和3年10月26日(火)午後1時30分～5時30分

場 所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

来場者：約80名



万博の桜2025

2025年に開催される大阪・関西万博の気運喚起や町の緑化を目指す、募金による2025本の桜植樹事業の実行委員会の事務局を引き続き担い、寄附の受け入れやPR業務を実施しました。なお、令和3年度中、府内等に178本の植樹を行い、引き続きの植樹とプレート設置を実施する予定です。



花博記念協会
設立30周年
記念フォーラム
「花のある
新しい暮らし」

趣 旨：1990年に鶴見緑地で開催された花の万博は、「自然と人間との共生」を理念に、栽培、緑化技術の革新的な進展や花緑の普及はもとより自然と人間がどのように歩んでいくべきか提言するものでありました。あれから30年、気候危機や感染症で生活が変容した今、花や植物が人の心や生活にどのような役割、効果をもたらしているのか。花をテーマに、様々な分野からの話題提供を元に、「花のある新しい暮らし」について探ります。

主 催：当協会

後 援：(公財)日本花の会、(一社)フラワーズサイエティー

日 時：令和4年3月24日(木)午後1時～4時

会 場：オンライン(Zoomウェビナー)

視聴者数：約160名

内 容：

(1) 講演

講演① 尾室 義典 農林水産省農産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室室長
「花きの現状について」

講演② 林 孝洋 近畿大学農学部教授「花を栽培することの楽しみ」

講演③ 城山 豊 咲くやこの花館館長「花のある新しい生活」

(2) パネルディスカッション

コーディネーター：

須磨佳津江(キャスター・ジャーナリスト)

パネリスト：

尾室 義典

林 孝洋

城山 豊



2021年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

4. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及・啓発のため、各事業の広報等を実施しました。また、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。

後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主催	● 名義等
令和3年度大阪府立花の文化園「幼児・小学生花の絵画展」(R4.1.5～2.6)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
令和3年度「都市緑化月間」(R3.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
第76回日本おもと名品展(R3.11.27～11.28)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
「学びあい、共に語ろう！グリーンインフラ」WEBシンポジウム(R3.12.7)	オンライン	一般財団法人日本造園修景協会 京都府支部	協力
博覧会の展覧会Part2「大阪の博覧会」(R3.12.4～12.25)	大阪府立中之島図書館(大阪市北区)	ShoPro・長谷工・TRC共同 事業体代表企業 株式会社小学館 集英社プロダクション	後援
小品盆栽フェア第30回春雅展(R4.3.25～3.27)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
グローバル時代の「日本庭園」を考えるシンポジウム(R4.3.12)	京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール(京都市左京区)	公益財団法人都市緑化機構	後援



第76回日本おもと名品展



小品盆栽フェア 第30回春雅展

ホームページ等の運営・管理

新型コロナウイルス感染症の影響により中止した次世代育成事業に替えて、青少年向け環境授業動画「花博チャンネル」を公開するなど、新たな情報発信を行いました。

また、コスモス国際賞受賞者のショートメッセージとして「人生のターニングポイント」「次世代に向けたメッセージ」等を引き続き収録、編集し、動画サイトに掲載しました。



アーカイブ事業

花の万博の成果を後世に永く引き継ぐため、協会が保存している映像情報のうち、動画1,032本分を新たなメディアに移行しました。なお、内容は、DVCPROからLTO8テープに移行を行い、パソコンでの視聴も容易にできるようMPEG4形式にもしていますので、今後は、随時動画サイトに記載していく予定です。

コスモス国際賞の広報

コスモス国際賞の最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、配付しました。
また、2021年(第28回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、記念講演等を取りまとめた報告書(1,300部)を作成し、国内外の関係者に配付しました。



情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』(変形A5版24頁2,000部)の8号、9号を刊行しました。両号は、新型コロナウイルス感染症が人類社会に大きな影響を及ぼしている現状をとらえ、「自然科学」「人文・社会科学」からの視点による、コスモス国際賞受賞者や協会関係学者等の対談、コラムを掲載しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	13件
企業・個人	11件

ノベルティ

協会名や事業名の認知拡大を目的にノベルティ 3種を制作しました。



扇子



ポストカード



ペーパーファイル

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配付やホームページに掲載しました。



普及啓発・ 国際交流事業

5. 国際交流事業

日本、台湾両国の青少年交流事業をオンラインで実施(例年実施している「高校生のための生き物調査体験ツアー in台湾」の中止による代替事業)した他、2022年アルメーレ国際園芸博覧会(オランダ)への出展準備を行いました。

日台ユース 生き物調査 オンライン セミナー

内 容：従来行っているツアーの目的である「自然科学分野における視野の多角化」および「グローバリズムの獲得」を目指し、コロナ禍においてもその一助となる事業として、日台の研究者から生態系の重要性や日頃の調査手法などをテーマとしたオンラインセミナーを開催しました。また、ツアーの過去参加者の現況をレポートしてもらい、ツアー内容の紹介等も行いました。

日 時：令和3年8月1日(日)日本時間午後2時～5時(台湾時間午後1時～4時)

主 催：当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園

次 第：第一部 日台の動植物の生態および調査手法について

(1) 台北市立動物園

- ・陳 賜 隆 博士 「台湾の自然環境について」
- ・尤 宣 雅 研究助理 「センザンコウの生態について」
- ・張 廖 年 鴻 博士 「台湾のユーラシアカワウソの生態について」

(2) 兵庫県立人と自然の博物館

- ・秋 山 弘 之 主任研究員 「小さな植物の観察方法」
- ・池 田 忠 広 主任研究員 「兵庫県篠山層群産脊椎動物化石の研究紹介」
- ・布 野 隆 之 研究員 「絶滅危惧種イヌワシの保全研究の紹介」
- ・山 崎 健 史 主任研究員 「台湾のハエトリグモ研究について」

第二部 「高校生のための生き物調査体験ツアー in台湾」過去参加者からのレポート

(1) ツアーの概要

(2) ツアー過去参加者による発表(大学生4名：日本2名、台湾2名)



国際園芸博 出展協力

オランダ・アルメーレで2022年4月14日から同年10月9日の会期で開催予定のアルメーレ国際園芸博覧会の日本国出展に係る委員会に参加するなど、日本政府の出展準備作業に協力しました。



組織運営

理事会 令和3年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第108回理事会 (決議の省略)	令和3年 6月16日(水)	——	令和2年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について 評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について 評議員会に提出する監事候補者名簿(案)について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について 役員報酬について
第109回理事会 (決議の省略)	令和3年 6月24日(木)	——	会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行理事)の選定について 参与の選任について
第110回理事会	令和3年 7月13日(火)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千 代田区)	2021年(第28回)コスモス国際賞受賞者の決定について
第111回理事会 (決議の省略)	令和3年 9月17日(金)	——	特定資産の取崩しについて 令和3年度収支予算の補正について 決議の省略の方法による評議員会の招集について
第112回理事会 (決議の省略)	令和4年 3月18日(金)	——	令和4年度資産運用方針書について 特定資産の取崩しについて 特定資産について 特定費用準備資金の保有について 令和4年度事業計画及び収支予算について 参与の選任について 助成事業審査委員会委員の選任について 諸規程の改廃及び制定について 決議の省略の方法による評議員会の招集について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について

評議員会 令和3年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第58回評議員会 (決議の省略)	令和3年 6月24日(木)	——	令和2年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について 理事の選任について 監事の選任について
第59回評議員会 (決議の省略)	令和3年 9月30日(木)	——	特定資産の取崩しについて
第60回評議員会 (決議の省略)	令和4年 3月31日(木)	——	特定資産の取崩しについて

アドバイザー会議 平成29年度より実施している中期計画が令和3年度末で終了するため、令和4年度からの新たな中期計画を策定するため、有識者によるアドバイザー会議を開催した。開催の経緯は、次のとおり。

開催日：第1回 令和3年12月書面にて意見聴取

第2回 令和4年2月14日(月)メルパルク京都(京都市下京区)

アドバイザーメンバー：池田 泰子(嵯峨美術大学教授) 後藤 祐一(株式会社日商社代表取締役社長兼CEO)

田中 充(花博記念協会前専務理事) 湯本 貴和(京都大学霊長類研究所所長)

協会設立30周年挨拶状

令和3年11月1日に当協会の設立30年の節目を迎えたことから、関係者等に対し、これまでの御礼と今後のご支援についての挨拶状を送付しました。

組織運営

令和3年度決算

貸借対照表 令和4年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	150,317,186	未払金	57,084,304
未収収益	79,331,912	預り金	785,511
流動資産合計	229,649,098	賞与引当金	2,542,655
2.固定資産		流動負債合計	60,412,470
(1)基本財産		2.固定負債	
基本財産定期預金	860,344,700	退職給付引当金	31,034,600
基本財産投資有価証券	29,655,300	固定負債合計	31,034,600
基本財産合計	890,000,000	負債合計	91,447,070
(2)特定資産		III 正味財産の部	
記念基金	9,872,778,932	1.指定正味財産	
退職給付引当資産	31,034,600	寄付金	10,000,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	20,000,000	基本財産運用益	90,000,000
法人運営安定化資産	40,000,000	特定資産運用益	800,000,000
特定資産合計	9,963,813,532	特定資産評価差額金等	△127,221,068
(3)その他固定資産		指定正味財産合計	10,762,778,932
投資有価証券	494,374	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
什器備品	8	(うち特定資産への充当額)	(9,872,778,932)
その他固定資産合計	494,382	2.一般正味財産	229,731,010
固定資産合計	10,854,307,914	(うち基本財産への充当額)	(0)
資産合計	11,083,957,012	(うち特定資産への充当額)	(60,000,000)
		正味財産合計	10,992,509,942
		負債及び正味財産合計	11,083,957,012

正味財産増減計算書 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

単位:円

科目	当年度	科目	当年度
I 一般正味財産増減の部		職員厚生費	170,800
1. 経常増減の部		会議費	203,434
(1) 経常収益		旅費交通費	243,303
基本財産運用益	4,209,991	通信運搬費	794,606
基本財産受取利息	4,209,991	広告費	529,112
特定資産運用益	221,098,722	消耗什器備品費	1,203,027
記念基金受取利息	218,946,722	消耗品費	1,011,213
特定資産受取利息	0	印刷製本費	429,525
記念基金投資有価証券償還益	2,152,000	光熱水料費	1,059,678
受取寄付金	4,000,000	役務費	38,244
受取寄付金	4,000,000	委託費	11,222,936
雑収益	855,000	賃借料	1,443,235
雑収益	855,000	使用料	289,203
経常収益計	230,163,713	保険料	90,798
(2) 経常費用		諸謝金	2,494,219
事業費	177,707,231	租税公課	3,780
役員報酬	8,790,446	支払負担金・会費	436,130
給与手当	35,665,018	支払手数料	122,794
法定福利費	6,380,242	雑費	136,787
退職給付費用	2,706,809	経常費用計	245,279,753
賃金	1,420,801	当期経常増減額	△15,116,040
職員厚生費	185,181	2. 経常外増減の部	
会議費	474,678	(1) 経常外収益	
旅費交通費	567,706	経常外収益計	0
通信運搬費	1,854,081	(2) 経常外費用	
広告費	1,234,594	経常外費用計	0
消耗什器備品費	2,807,063	当期経常外増減額	0
消耗品費	2,359,497	当期一般正味財産増減額	△15,116,040
印刷製本費	1,002,225	一般正味財産期首残高	244,847,050
光熱水料費	2,472,583	一般正味財産期末残高	229,731,010
役務費	89,236	II 指定正味財産増減の部	
委託費	26,186,852	受取寄付金	4,000,000
賃借料	3,367,547	受取寄付金	4,000,000
使用料	674,807	基本財産運用益	4,209,991
保険料	211,862	基本財産受取利息	4,209,991
諸謝金	5,819,844	特定資産運用益	228,879,584
租税公課	8,820	記念基金受取利息	220,189,484
支払負担金・会費	16,652,599	記念基金投資有価証券償還益	8,690,100
支払助成金	13,453,451	特定資産評価損益等	△384,459,395
支払手数料	286,518	記念基金投資有価証券評価損益等	△384,459,395
顕彰賞金	42,715,600	一般正味財産への振替	△230,551,475
雑費	319,171	一般正味財産への振替	△230,551,475
管理費	67,572,522	当期指定正味財産増減額	△377,921,295
役員報酬	3,767,334	指定正味財産期首残高	11,140,700,227
給与手当	32,400,504	指定正味財産期末残高	10,762,778,932
法定福利費	6,376,355	III 正味財産期末残高	10,992,509,942
退職給付費用	2,496,591		
賃金	608,914		

財団の概要(令和4年3月31日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 令和4年3月31日現在(50音順)

評議員	小栗邦夫	(公財)中央果実協会副理事長
評議員	角英夫	(特)日本放送協会専務理事・大阪拠点放送局長
評議員	金田章裕	(大)京大名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋徹	大阪市副市長
評議員	竹歳誠	元国土交通事務次官
評議員	田中清剛	大阪府副知事
評議員	鳥井信吾	大阪商工会議所会頭
評議員	土井元章	(大)京大大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	正木啓子	(公社)日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長

役員 令和4年3月31日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長グループCEO
専務理事	片山博昭	常勤
理事	柴田道夫	(大)京大名誉教授
理事	武内和彦	(公財)地球環境戦略研究機関理事長
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(大)京大名誉教授
理事	和田新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	崎元利樹	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

顧問 令和4年3月31日現在(50音順)

顧問	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	アイン(株)最高顧問
顧問	三井康壽	政策研究大学院大学特別教授

参与 令和4年3月31日現在(50音順)

参与	青木保之	(学)東洋女子学園理事
参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館名誉館長
参与	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用、広報等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業

1. 2022年(第29回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2022年(第29回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和4年度は、2022年の受賞者選考及び決定に加え、2023年の選考準備を行います。2022年の受賞者は7月下旬に決定し、11月に授賞式を開催します。

また、2023年に第30回目の節目の年となることから、これを記念した行催事の準備、調整を進めます。

2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、「2023年ブエノスアイレス国際博覧会」の開催が中止されたため、今後は、「2025年日本国際博覧会(大阪)」に向け、BIEと協議を進めます。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」及び被災地における「復興活動支援」のための助成を行うと共に、令和5年度実施の公募は、「復興活動支援」を「調査研究」、「活動・行催事」に統合し実施します。

2. 地域協働事業

助成事業成果発表会と市民活動団体等の交流を目的とした「花と緑の交流広場」(呼称:「自然と人間との共生フェスタ」)については、令和5年度の開催を目途に準備を進めます。

普及啓発事業及び国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」及び、幼・保育園児に自然に親しむ機会を提供する「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」については、オンラインの導入及び感染症の対策を施し、慎重な運営により実施します。

また、「自然観察教室」は、従来の宿泊型をやめ、日帰りでも自然や文化を学ぶエクスカーション型として実施します。

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

3. 普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画します。

また、当協会設立30周年記念事業として「周年記念史の刊行」を行う他、「2025年日本国際博覧会」の機運喚起と街の緑化をめざした「万博の桜2025」について、引き続き実行委員会事務局として、PRや寄附の受け入れ等を行います。

情報発信については、「コスモス国際賞受賞記念講演会」をハイブリッド型(リアル・オンライン)で開催し、広い情報発信に努める他、情報誌『KOSMOS』の刊行を引き続き行います。また、「小学校講師派遣事業」「自然観察教室」に係る講義の動画を収録し、ソーシャルメディアにて活用する他、コスモス国際賞受賞者読本の刊行等を行います。

さらに、花の万博資料や当協会の蓄積情報のアーカイブとしてのデータベース化を引き続き進めます。

コロナ禍における新たな事業として、「高校生ネイチャービデオコンテスト(仮称)」や公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会との共催にて「自然と人間との共生フォーラム(仮称)」を検討、実施します。

4. 国際交流事業

今後開催される国際園芸博覧会への政府出展に協力する他、台湾の自然の保護、研究の状況を知る「国際バーチャル自然見学ツアー in台湾」を、日台をWEBでつなぎ、実施します。

調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行う他、令和2年度まで実施した「校庭・園庭における生態園づくり」を取りまとめた報告書を作成します。

また、過年度助成団体等との連携や、協会事業に沿った企業のSDGsやメセナの取り組みを調査し、協働の方策を検討します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号
TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524
<https://www.expo-cosmos.or.jp/>